TADOKU JUNIOR 自然のふしぎ神話 ★★★☆☆ ふつう 414語

Story of Sisyphus

シーシュポスのお話

Flora J. Cooke（1895年の本） 原文そのまま 朗読：Linette Geisel

人の声の朗読
を聞く・Web版

どんなおはなし？ 海のむすめシロイクモが、お日さまにつれていかれてしまいました。海が悲しんでいると、岸にいたきょじんシーシュポスが声をかけます。

LITTLE White Cloud was the Ocean's daughter. The Ocean loved her, and wished always to keep her near him.

One day, when her father was asleep, White Cloud went out to walk alone.

The Sun saw her and said, "Come, White Cloud, I am your king, I will give you a ride upon my bright rays." White Cloud had often longed for this very thing, so she went gladly, and soon found herself among the fleecy clouds in the sky.

When the Ocean awoke he called his little daughter. She did not answer. He called again and again, louder and still louder, until the people said, "Listen, it is thundering!"

But the Ocean only heard the echo of his own voice from the shore. He rushed high up on the beach and moaned aloud.

He ran into all the caves but White Cloud could not be found.

Every one had loved White Cloud, so by this time all the water was white with the crests of the weeping sea nymphs.

A great giant was sitting upon the shore near the sea. His name was Sisyphus. He felt sorry for the Ocean and said, "Listen, friend Ocean, I often watch you carrying the great ships and wish that I, too, had a great work to do.

"You see how dry it is on this side of the mountain. Few people come this way. You are not even now as lonely as I, yet I want to help you. Promise me that you

will put a spring upon this mountain side, where all the tired and thirsty people may drink, and I'll tell you where White Cloud is."



The Ocean said, "I cannot put a spring upon the mountain, but if you will follow my son, River, he will take you to a spring where he was born."

The giant told the Ocean how the Sun ran away with White Cloud. The Sun heard him and was angry. He placed Sisyphus in the sea saying, "You are far too strong to sit idly here upon the shore. You say you want a great work to do; you shall have it. You shall forever use your strength to push these stones upon the shore, and they shall forever roll back upon you."

The giant began his work at once, and has worked faithfully every day since that time.

Many people do not yet know what his work is. Do you? Do you know what Sisyphus is making?



小さなシロイクモ（白い雲）は、海のむすめでした。海はむすめが大すきで、いつも自分のそばにおいておきたいと思っていました。

ある日、お父さんがねむっているあいだに、シロイクモはひとりでさんぽに出かけました。

お日さまがシロイクモを見て言いました。「おいで、シロイクモ。わたしはおまえの王だ。わたしのかがやく光に乗せてあげよう。」シロイクモは、前からずっとそうしたいと思っていたので、よろこんでついていきました。そしてまもなく、空のふわふわした雲のなかまの中にいました。

目をさました海は、小さなむすめをよびました。むすめは答えませんでした。海は何回も何回も、もっと大きな声で、もっともっと大きな声でよびました。とうとう人々が「ほら、かみなりだ！」と言うほどでした。

けれども海には、岸からはねかえってくる自分の声のこだましか聞こえませんでした。海ははまのずっと上までかけ上がり、大きな声でうめきました。

ほらあなというほらあなに入ってさがしましたが、シロイクモは見つかりませんでした。

だれもがシロイクモを大すきだったので、このころには、なきさけぶ海のようせいたちの波がしらで、海はいちめん白くなっていました。

海の近くの岸には、大きなきょじんがすわっていました。きょじんの名前はシーシュポスといいました。シーシュポスは海をかわいそうに思って言いました。「聞いておくれ、海の友よ。わたしは、きみが大きな船を運ぶのをよくながめては、わたしにも大きな仕事があったらいいのにと思っているのだ。

「ほら、山のこちらがわは、こんなにかわいているだろう。このあたりに来る人はほとんどいない。きみは今だって、わたしほどさびしくはない。それでも、わたしはきみを助けたいのだ。この山のしゃめんに、つかれてのどのかわいた人たちがみんな水を飲めるように、わき水を作るとやくそくしておくれ。そうしたら、シロイクモがどこにいるか教えてあげよう。」

海は言いました。「わたしには山にわき水を作ることはできない。でも、わたしのむすこの川について行けば、川が生まれたわき水のところへつれて行ってくれるだろう。」

きょじんは海に、お日さまがシロイクモをつれていってしまったことを話しました。お日さまはそれを聞いて、おこりました。お日さまはシーシュポスを海の中において言いました。「おまえはここの岸でのんびりすわっているには、力が強すぎる。大きな仕事がしたいと言ったな。させてやろう。おまえはいつまでも、その力で岸の石をおし上げるのだ。そして石はいつまでも、おまえのほうへ転がりもどってくるのだ。」

きょじんはすぐに仕事をはじめ、そのときから毎日、まじめにはたらきつづけています。

その仕事が何なのか、まだ知らない人もたくさんいます。あなたは知っていますか？シーシュポスが何を作っているのか、知っていますか？

たんご と クイズ　シーシュポスのお話

Cloud 雲	**Ocean** 海	**Sun** お日さま（太陽）
thundering かみなりが鳴っている	**giant** きょじん	**ships** 船
stones 石		

Q1 シロイクモをつれていったのはだれ？

① 川　② お日さま　③ きょじん

Q2 海がむすめを大声でよぶと、人々は何だと思った？

① 風の音　② 鳥の声　③ かみなり

Q3 お日さまは、シーシュポスにどんな仕事をさせた？

① 岸の石をおし上げつづける仕事　② わき水をほる仕事　③ 船を運ぶ仕事

こたえ

Q1 ②　シロイクモは、お日さまのさそいをよろこんで受け、ついていきました。

Q2 ③　海があまりに大きな声でよぶので、人々は「ほら、かみなりだ！」と言いました。

Q3 ①　いつまでも岸の石をおし上げ、石はいつまでも転がりもどってくる、というおわらない仕事です。

原田英語の多読ベストジュニア

本物の英語の絵本 1,000話以上を、原文・人の声の朗読・和訳つきで。ゲーム・なぞなぞも。ぜんぶ無料・登録なし。

haradaeigo.com/tadokubestjr/

出典　英文：原文そのまま（1語も書きかえていません）。Project Gutenberg 電子書籍 #30800（Flora J. Cooke、1895年）。パブリックドメイン。
挿絵：(1895 edition)（同じ本の初版の挿絵。パブリックドメイン）
朗読（Web版）：Linette Geisel（LibriVox のボランティア。パブリックドメイン）
和訳・クイズ：AIと人が作成。AIは３重チェック。人の目でも順次確認しています。